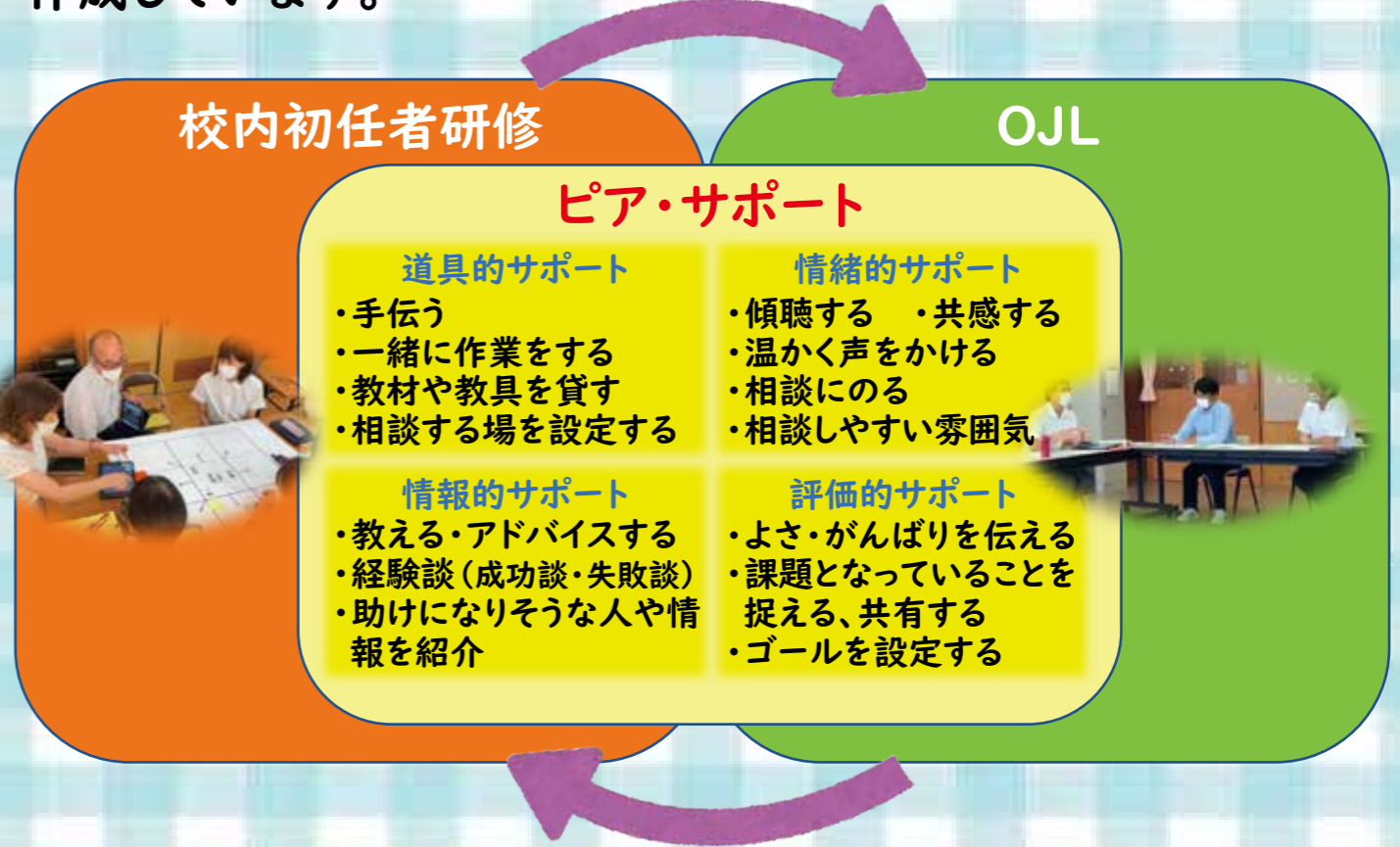


小・中学校初任者研修

メンター方式による校内研修について Vol.2

本リーフレットは、福島県教育センターの研究「メンターチームによる初任者研修を充実させる校内研修の在り方」を基に作成しています。

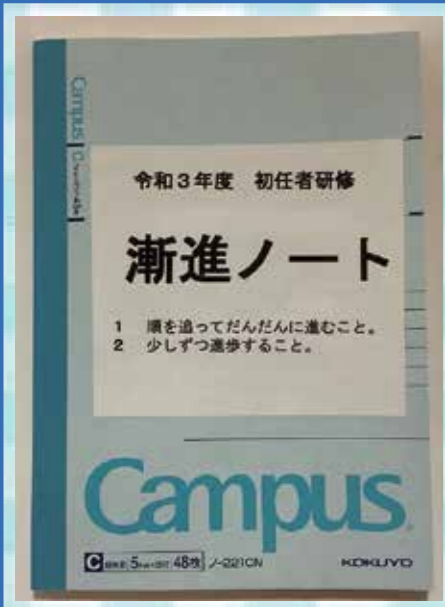


2年間の研究の中で、校内初任者研修においてメンターとなる教職員がピア・サポートを踏まえた指導・支援を行うことの重要性を確認しました。それにより、メンターと初任者との交流が生まれ、OJL (On the Job Learning) が機能することも認められました。研究協力校の事例を基に、メンター方式における校内初任者研修の実践をご紹介します。

初任者研修におけるメンター方式及び研究の詳細につきましては、福島県教育センターのWebサイト又は右のQRコードをご覧ください。



OJLのための一工夫



<ノートの活用>

- ・年度の初めに初任者にノートを配付
- ・ノートには初任者が日常の指導で悩んだことを記し、研修Co. やメンターに質問し、解決法を追記

- その時に解決出来なかった悩みをそのままにせずに、記録していた。
- 記録した悩みについて自分で解決が難しいときに、メンターに質問することができた。
- 初任者の悩みや解決法について、研修Co. や研修リーダーと一緒に振り返る機会を確保することができた。
- ノートの活用により、初任者の内省が進んだ。

「今月をチェック」シート

授業	1	2	3	4	5
学級経営	1	2	3	4	5
児童との関わり	1	2	3	4	5
保護者との関わり	1	2	3	4	5
同僚との関わり	1	2	3	4	5
相談したいこと					

<チェックシートの活用>

- ・月ごとや学期ごと等、定期的に初任者にチェックしてもらう。
- ・初任者がチェックした項目について、うまくいったことや悩んでいることについて話し合う。

- 初任者の現状について話し合うことができた。
- メンターが初任者の状態を把握するとともに、初任者のうまくいったことを価値付けたり、悩んでいることについて解決方法を話し合ったりすることができた。

ピア・サポ研修

初任者のニーズ
(例：構造的な板書、体育での楽しい準備運動、宿題はどこまで〇つけすれば？・・・)
について学びたい

日時
9/25 (金)
16:10~16:25

場所
体育館

参加者
(一緒に学びたい方はどなたでも)

遠藤 黒澤
阿部 長根

<ホワイトボードの活用>

- ・初任者が学びたい内容を把握し、時間と場所を構造化することで、初任者以外の教職員も学び合えるように周知する。

- 実技研修等、複数のメンターと学ぶことができた。
- 若手教員もベテラン教員も、興味がある研修を選びながら、学び合うことができた。

メンター方式による校内初任者研修実施に向けての3STEP

STEP1 校内組織体制の整備

○全教職員の共通理解

協力校では、3月末と4月始めの職員会議等で、校長先生がメンター方式についての説明を行うことで、職員全体で共通理解が図れました。

○メンターチームの検討

協力校では、管理職・研修Co・研修リーダーで相談しながら、初任者の特性に合わせたメンターチームの編制を検討しました。

初任者だけでなく、メンターとなる先生方の成長につながるようにメンターチームを検討しました。



校長先生の思い

○年間研修計画の立案

協力校では、研修リーダーが中心となって、年間の研修計画を立案し、年度初めに下表のような資料を教職員に配付しました。

指導項目・ねらい	時間	テキスト・資料・その他	指導者
○生徒指導の意義 生徒指導の意義と役割について理解を深め、自校の現状と課題を把握し、生徒指導の充実を図る。	1	・テキストP. 42 ・資料P. 7-1~5 ・「生徒指導提要」	研修Co.
○問題傾向をもつ生徒の指導援助 (いじめ、不登校、虐待) 生徒の問題傾向の理解と指導援助の進め方や問題行動の発見と効果的な生徒指導の方法を理解し、実践的な指導力を身に付ける。	1	・テキストP. 44・45 ・資料P. 6-9~33 ・「ふくしまサポートガイドブック」 ・「不登校対応資料 Vol. 5」	生徒指導主任

研修で使用するテキスト等の資料や指導担当者が明記されていたので、ゆとりをもって研修の準備を進めることができました。

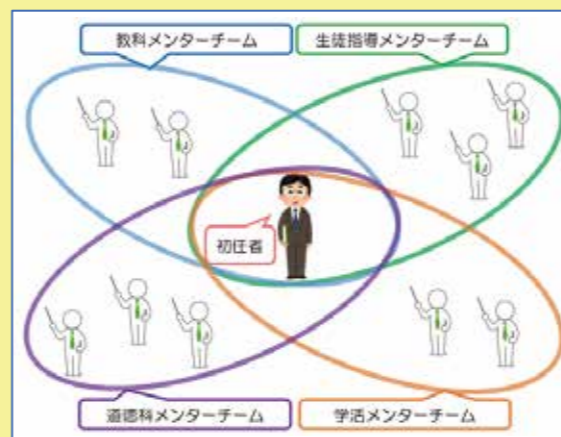


メンターの感想

STEP2 メンターチームの編制

○メンターチームの決定

協力校では、校長先生のリーダーシップのもと、初任者育成のためのメンターを先生方に依頼していました。また、研修内容に合わせて指導・支援を行う、複数のメンターでチームを組織し、研修の効果を上げていました。



- ・メンターが分散されるので負担軽減が図れました。
- ・少人数なので時間を合わせやすかったです。
- ・メンターも互いに学び合う機会となりました。



研修リーダーの感想

○校内初任者研修の振り返り

協力校では、夏休み中に校内初任者研修の振り返りを行いました。初任者の実態を共有し、今後どのようにメンターチームによる研修を活性化するとよいのかを検討し、改善策をメンターに提示することができました。



○各種「校内研修」の活用

協力校では、校内初任者研修における先生方の負担軽減と研修の効果を高めるため、右図のように「生徒指導部」「情報教育部」「特別支援コーディネーター」等が企画・運営する各種校内研修と校内初任者研修のタイアップを図っていました。

- 【第1回】 テーマ「生徒指導事例研究会」
予定日：6月8日（火）
担当：生徒指導部
- 【第2回】 テーマ「情報教育」
予定日：7月16日（金）
担当：情報教育主任
- 【第3回】 テーマ「特別な教育的支援を必要とする児童への教科指導」
予定日：8月27日（金）
担当：特別支援コーディネーター
- 【第4回】 テーマ「ICT機器等実技研修」
予定日：11月2日（火）
担当：情報教育部

○実態把握を踏まえた研修

協力校では、校内初任者研修の事前に、下図のようなシートを初任者に配付し、初任者の悩みや困り事などの実態に応じた研修を実施していました。

事前に相談したいことを初任者が振り返ったことで、初任者の内省が深まり、研修で具体的な解決策をメンターと検討できました。

「次の研修で相談したいこと」シート 日時：7月11日 2校時 内容：生徒指導研修	
1	進路指導について、8月と11月の三者面談ではそれぞれどのような話をすればいいか教えてください。
2	進路指導について、生徒と保護者で希望する学校が異なる時、どのように話を進めればいいのか教えてください。

STEP3 メンターによる校内初任者研修の実施

○初任者の本音を引き出す対話型研修

これまでの研究から、校内初任者研修において、初任者が抱えている課題や困難さを把握し、指導・支援するためにも対話型の研修が重要であることが分かりました。

研究協力校では、以下のイメージをメンターで共有し、対話型の校内初任者研修を具現化しました。

対話型の校内初任者研修（45分の場合）

対話と振り返りを考慮した時間のシステム化

システム1	
10分	講義を通した学び
25分	*対話を通した学び
10分	振り返り（記録）
システム2	
25分	*対話を通した学び
10分	講義を通した学び
10分	振り返り（記録）

*対話を通した学びにおける初任者の思考を引き出すパターン

- パターン1
フリートークの中から引き出す
- パターン2
資料から話題を選択させて引き出す
- パターン3
先輩教員の失敗談や実践例を皮切りにして引き出す

- ・マンツーマンでの指導よりも、複数メンターによる指導の方が負担を感じませんでした。
- ・しっかりと初任者と対話できたことで、初任者の困り感に沿った研修が行えました。
- ・自分の指導方法を振り返る機会にもなり、今後の自分の課題を発見することができました。



メンターの感想

○初任者の感想

対話型の研修だからこそ自身の実践を振り返り、自分の課題や今後の解決策など、気付くことができました。

研修を通して、いろいろなメンターの先生方とつながりがもて、悩んだときに質問がしやすくなりました。

自分のがんばりをいろいろな先生から認めてもらい、これからも生徒のために頑張っていこうと思いました。

先生方の体験談を教えてもらうことで、「こんな先生になりたいな」という教師像を描くことができました。

